

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／新井直哉

青森大学 学長 崎谷康文



地域に根ざし、地域と共に生きる大学。 確かな教養と実践スキルを身につける カリキュラム改革を実行中

昨 年4月の学長就任後、私は「青森大学ルネッサンス」を掲げ、地域に根ざす大学という原点を大切にしながら、時代を先取りし、大学としての魅力を高めるべく、改革を進めてきました。その柱が2013年度から始めた「青森大学基礎スタンダード」です。これは、「確かな教養」と「実践スキル」を身につけ、専門科目につなげるための全学部共通の教養教育カリキュラムのこと。なかでも、大学での学びを理解し、学び方についての具体的なスキルを身につけることを目的とした初年度教育に特徴があります。

例えば、重点科目「学問のすすめ」「人間と文化」「社会と環境」は、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部との学生が混在する5人単位で進めます。複数学部の教員が共同で担当し、身近で、かつ専門分野につながるテーマを扱いますが、言語能力や表現能力、学ぶ意欲や知的好奇心を高めることに重点をおいています。議論や発表などのグループワークを通して、学生自ら主体的・能動的に問題を解決していく姿勢を育てます。出席率は非常に高く、学生の前向きな態度が印象的です。専門科目の改革も進めていきます。

地域連携、地域貢献にもこれまで以上に力を入れていきます。大切なのはチーム力。青森県は平均寿命が短い「短命県」と言われ健康面の課題があります。それに対して、薬学部を中心に、社会学部（社会福祉学コース）であれば高齢者福祉、経営学部（スポーツビジネスコース）であれば健康づくりという側面からアプローチするなど、各学部が協力することで大きな力になると考えています。

【学長プロフィール】さきたに・やすふみ●1947年生まれ。東京大学法学部卒業。北九州市教育長、文化庁文化財保護部長、文部省生涯学習局長、衆議院文部科学委員会専門員などを経て、2005年から11年まで独立行政法人日本芸術文化振興会理事。12年4月より現職。日本イコモス国内委員会監事などを務める。

【大学プロフィール】1968年開学。経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の4学部。

県の教育委員会と協力を結び、大学の力を県の教育向上に生かす取組みも始めています。中高生に薬剤師体験をしてみようという試みもその一つ。薬剤師不足という県内事情からの発想ですが、定員を上回る応募がありました。高大連携をより密接にするため、私自身、各高校を訪問し、大学の変化について説明しています。本学には北海道から沖縄まで全国から学生が来ていますが、青森県を中心に、北海道、秋田、岩手出身者が9割を占める、地域に根ざし、地域と共に生きる大学です。加えて、文系・理系の4学部を備え、学問の選択の幅があります。親身な指導で「未来を拓く実践力」が身につく教育を行っています。高い就職率を誇り、着実な努力をすれば、将来の道が大きく広がる大学であることを強調したい。「あの大学は若者の可能性を伸ばし、社会に羽ばたかせてくれる」。高校の先生方に、そう感じていただける大学でありたいと思います。